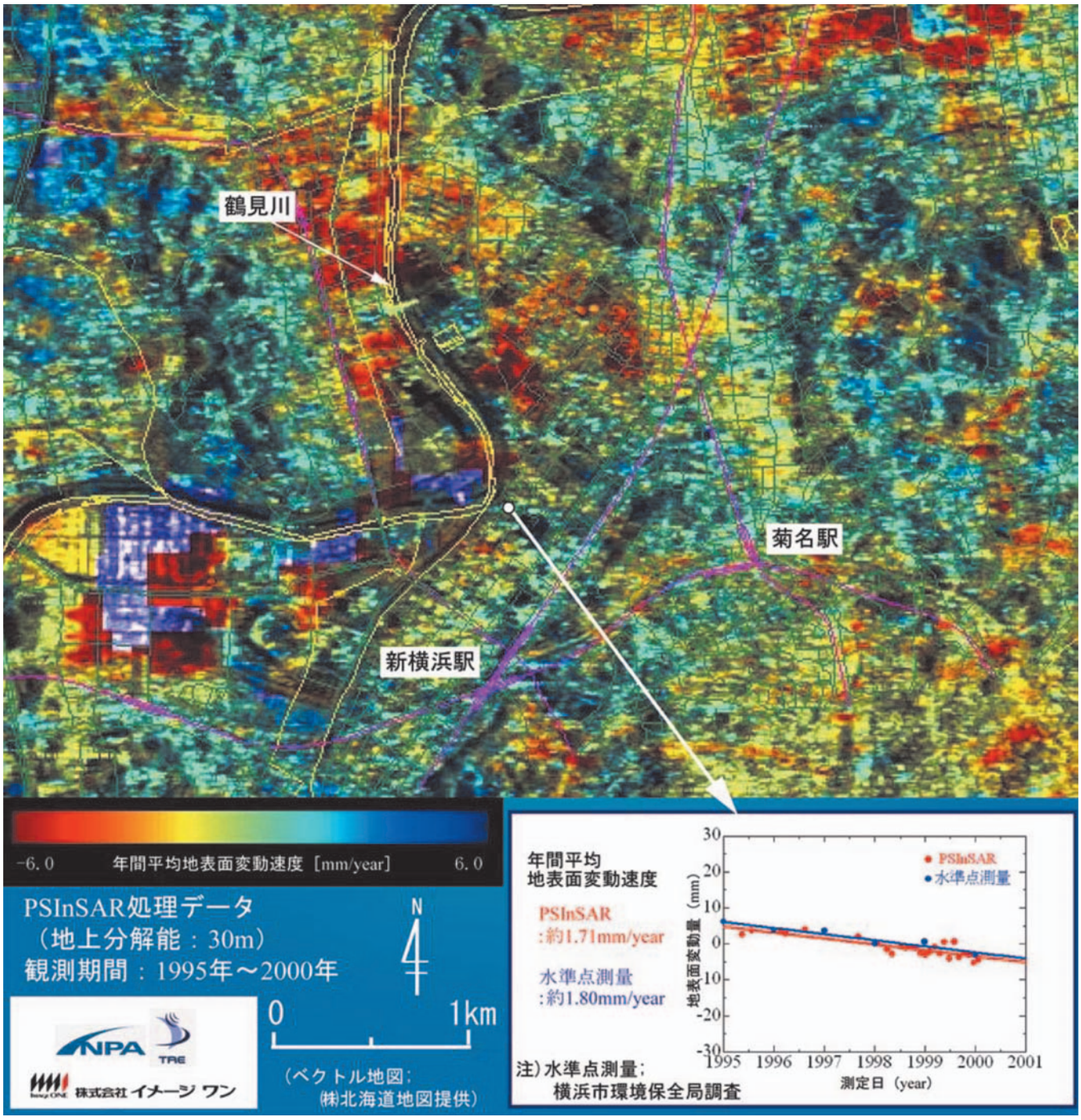
PSInSAR技術による地表面変動の計測（2）－新横浜駅周辺－

データ提供：株式会社イメージワン
データ編集：東京理科大学・国土情報工学研究会

下図は神奈川県の新横浜駅周辺における「年間平均地表面変動速度（mm／year）、1995年～2000年」を画像化したものです。前掲の画像と同様に人工衛星ERS（1号、2号）によって観測されたSARデータを使用しています。鶴見川周辺の東側で地盤沈下が起きていることが把握できます。図中、白丸の地点では、横浜市が水準測量を毎年実施し、地盤沈下の状況をモニタリングしています。この計測地点においてPSInSAR処理と水準測量によるそれぞれの地表面変動量を比較したグラフも掲載してみました。6年間の地盤沈下速度は、時間の経過とともにほぼ直線的に進行しており、PSInSAR技術では約1.71mm/year、水準測量では約1.80mm/yearであり、相対誤差は1mm/year以内であることが確認されています。今後、都市域における地盤沈下を広域にわたって観測する新たな手段の一つとして、PSInSAR技術の活用が期待できます。